

引退競走馬に明日を創る

長野市立長野高等学校2年 町田大夢

目次

- 1 研究の動機
- 2 研究の概要
- 3 考察
- 4 今後の展望
- 5 感想

1 研究の動機

- 競走馬が大好き
- 引退した競走馬はどこへ行くのか？
- 一部は繁殖や種付けに行くだろうが、他の馬はどうなるのか
→引退馬のその後について書かれたネットニュースを見つける
- 人間の都合で生まれ、人間のために頑張って走ってきた競走馬に、少しでも長く、余生を楽しんでほしいと思い、養老牧場を作ることを決意
- 養老牧場の設立にあたり、引退馬についての現状を知る必要があると考え、探究活動を開始する

2 研究の概要

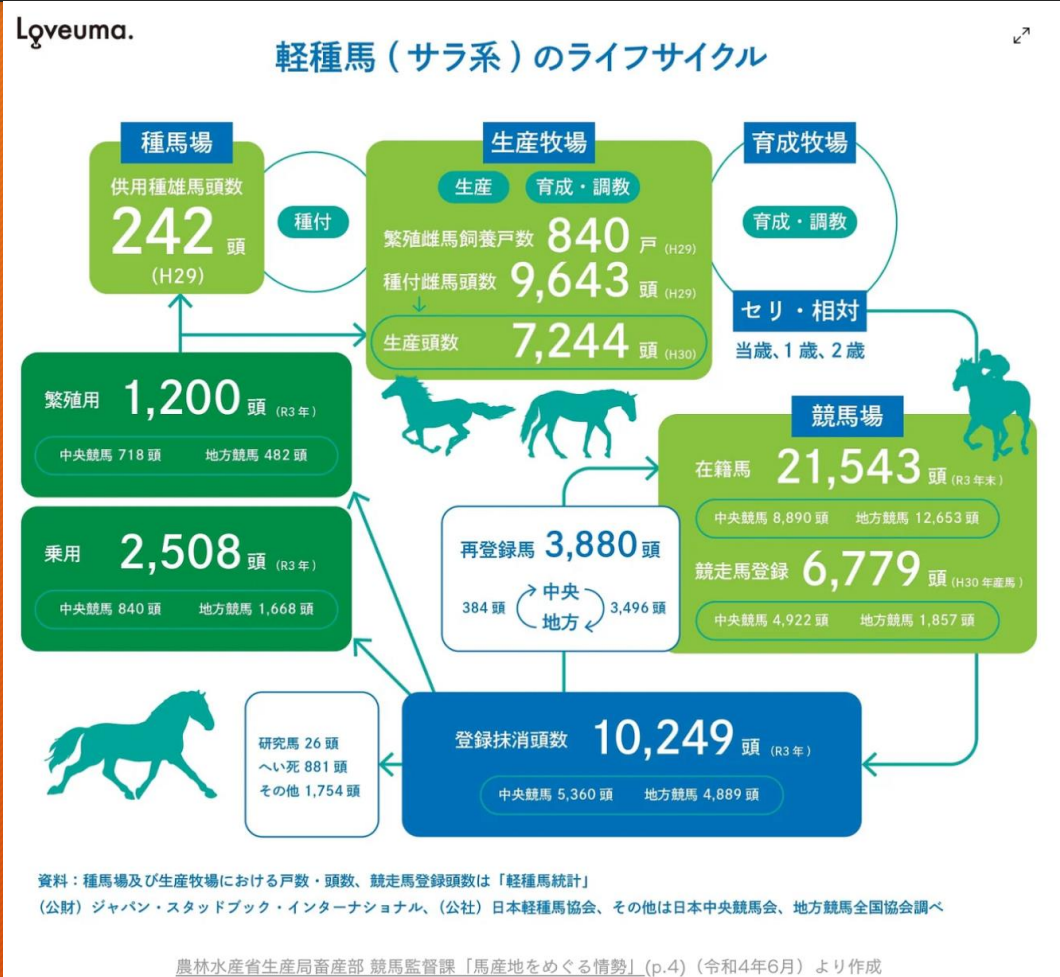
- ① 引退馬の現状をインターネットや、過去の新聞を使って調べる
- ② 引退馬問題について、インターネット上で記事を出している、株式会社 CreemPan「Loveuma」代表取締役、平林健一様への取材
- ③ 飯綱乗馬クラブへの取材
- ④ アメリカの警察官への取材
- ⑤ 社台スタリオンステーションへの取材

①引退馬の現状をインターネットや、過去の新聞を使って調べる

引退競走馬の現状

- 年間8000頭ほどが殺処分や、食肉になっていると言われている
- 競争生活を終え、乗馬クラブに行くと言ったら暗黙の了解として、殺処分か食肉になる（みんな引退馬のことを問題だと思っているが、見て見ないふりをしている）
→競馬会では引退馬の話はタブーとされている
- 馬は、経済動物と言われていて、早く走ることだけが目的で、走らなくなったら用済みだとされる
- 引退競走馬を保護する活動には、引退馬協会、Loveuma、TCC引退競走馬ファンクラブ、アヴニールファームなどがある
- それぞれの会社ごとに活動が違う

Loveuma に掲載されている参考資料



② 引退馬問題について、インターネット上で記事を出している、株式会社CreemPan「Loveuma」代表取締役、平林健一様への取材

・ Q1. 引退馬問題の現状についての平林様の考え

- ・ 引退した競走馬の多くが登録抹消後、行方が不明になっている
- ・ この問題や引退した後の馬の行き先に、馬の意志が介在していないことが問題ではないのか
- ・ 競馬という一大産業の中で起こった問題のため、解決には時間がかかるのではないかと（生産する数を減らすのは難しいのではないかと）

・ Q2 今後、この問題をどうしていくべきなのか？

- ・ まずは、年齢に関わらず、多くの人に、今の引退馬の現状を知ってもらうことが大切
- ・ 最終的には今よりも明確なゴールを設定する必要がある

Loveuma にて掲載していただいたインタビュー記事



<https://www.creempan.jp/post/info-240810>

③ 飯綱乗馬クラブへの取材

引退馬問題の現状とは？

- ・中央、地方競馬で活躍した馬や、セレクトセールで高値がついた馬などは乗馬クラブや牧場に引き取られることがある
- ・多くの場合は、食肉やペットフードになるか殺処分される

引退馬を多く引き取り、乗馬として活用しているが、馬の生活費はどうしているのか？

- ・競走馬時代のファンが引き取り、お金の面で援助する場合がある
- ・オーナーがあらたにつくことが多い

セレクトセールとは？

北海道苫小牧で行われる、日本最大級の競走馬のセリ

■セレクトセール2024 セール結果 [集計]

▼1歳馬

2024年7月8日(月)					価格はすべて消費税別						
日別	性別	上場頭数	落札頭数	落札率(%)	価格(円)					主取頭数	欠場頭数
					総額	最高	最低	平均	中間		
1日目	牡	137	133	97.1	10,321,000,000	590,000,000	8,000,000	77,601,504	50,000,000	4	6
	めす	96	91	94.8	4,176,000,000	400,000,000	8,000,000	45,890,110	39,000,000	5	4
	計	233	224	96.1	14,497,000,000	590,000,000	8,000,000	64,718,750	41,000,000	9	10

▼当歳馬

2024年7月9日(火)					価格はすべて消費税別						
日別	性別	上場頭数	落札頭数	落札率(%)	価格(円)					主取頭数	欠場頭数
					総額	最高	最低	平均	中間		
2日目	牡	156	149	95.5	10,457,000,000	410,000,000	10,000,000	70,181,208	48,000,000	7	5
	めす	83	82	98.8	3,964,000,000	200,000,000	13,000,000	48,341,463	38,000,000	1	0
	計	239	231	96.7	14,421,000,000	410,000,000	10,000,000	62,428,571	42,000,000	8	5

▼合計

2024年7月8日(月)～2024年7月9日(火)					価格はすべて消費税別						
日別	性別	上場頭数	落札頭数	落札率(%)	価格(円)					主取頭数	欠場頭数
					総額	最高	最低	平均	中間		
合計	牡	293	282	96.2	20,778,000,000	590,000,000	8,000,000	73,680,851	50,000,000	11	11
	めす	179	173	96.6	8,140,000,000	400,000,000	8,000,000	47,052,023	38,000,000	6	4
	計	472	455	96.4	28,918,000,000	590,000,000	8,000,000	63,556,044	42,000,000	17	15

アメリカの警察官にインタビュー

引退馬問題について知っているか？

- ・聞いたことはあるが、あまりよく知らない。
- 引退馬が問題にならないほど充実した余生を送っているのか？

馬に対する考え方を教えてください

- ・生活を共にするパートナーであり、家族も同然。
- ・アメリカの人々は元々騎馬民族のため、馬に対する日本人との考えも違うと思う。
- ・トレーサビリティが導入されているところもあり、引退後行方不明になる馬はいないのではないか？

アメリカの警察の方にインタビュー



アメリカの馬
← に乗った警 察官の様子 →



④ 社台スタリオンステーションでの取材

Q 引退競走馬の現状とは

- ・多くは殺処分か食用になると言われている
(犬や猫のペットフードになることもよくある)
- ・現役時代に活躍した馬や血統がいい馬は、種牡馬や繁殖牝馬として活用される
- ・乗馬として乗馬クラブに譲渡、または転売される
- ・競走馬時代のファンに引き取られる
- ・引退馬を受け入れてくれる施設に譲渡される



④ 社台スタリオンステーションでの取材

・ Q 種牡馬を管理する社台スタリオンステーションの職員の方は、引退馬問題の今後についてどう考えているのか？

- ・ 競馬という産業が縮小しない限り、生産頭数を制限するなどの対策は難しいと思う。
- ・ ここ50年で見ても小さな牧場での競走馬の生産頭数は減ってきている。
- ・ 最近の競馬ブームもあり、日本全国で競走馬の生産に力が入られている。
→ 今後5年の間は競走馬の生産は増えると予想される。

社台ホースクリニックの見学

- ・ 去勢手術の様子を見学させていただき、引退馬問題にも大きく関わる「繁殖」についての責任の重さを感じた



北海道サマーセールの見学

実際にセリが行われている様子→

- ・馬一頭につけられるべき本来の価値以上の値段がつけられている光景を不思議に感じた



3 考察

- 競馬に関わるどんな人も競走馬の引退後について問題だという認識があった。
- 多くの人が、この問題のゴールがわからないと考えていた。
- 近年の競馬バブルも影響し、生産されているサラブレッドが増えていることから、今後、引退馬はもっと増えるのではないかと考えた。それに伴い、引退馬のいき先が確保できないことも容易に想像できる。
→現状よりも多くの引退馬が悲しい未来を送るのでは？
- 長年、競馬業界で引退馬問題の話題がタブーとなっていた理由はとても複雑で様々な利害関係が関係していた。

3 考察

- 競馬に関わる人で、引退馬を殺処分したい人は、いないはずだから、それでもやむおえず今の状況になっているのには何か大きな理由があるはずだが、あまりその理由がはっきり分からなかった。
- セレクトセールなどで本来、馬につけられる価値以上の値段がつけられているのも問題なのではないのか？
- 今回の活動では引退馬に関わりのある方々にお話を聞かせていただいたが、生産に関わる牧場の方や、屠畜に関わる方などにはお話を聞けなかったため、もっとたくさんの方のお話を聞く必要があると考えた。

5 今後の展望

- 養老牧場を設立するにあたり、引退馬の管理にかかる費用を賄う必要があるため、どのようなサイクルで受け入れるのかを考える。
- さらにこの探究を深めるため、肥育場の方や競走馬の育成に従事している方など、競馬に関わる方々や、競馬に関わらない人ともこの問題についての対話をしてみたい。
- 探求している中で、引退馬問題という言葉を使ってきたが、何が1番の問題なのかがわからなくなってきたため、改めて、何が問題なのか考える。
→現段階では、殺処分になる馬がいることや、行方不明になる馬がいることが問題だと考える。

6 感想

- 引退馬問題の現状は最初に考えていたものより悲惨で、多くが食肉（ペットフードを含む）、殺処分という末路を辿っていた。
- 競馬という一大産業の中で起こっている問題のため、大きなシフトチェンジが難しいのだと感じた。
- トレーサビリティを導入している国がある一方で、日本では行方不明になる引退馬がいるということはやはり大きな問題だなと感じた。
- 競馬が行われている以上、引退する馬は出てくるから、その馬たちをどうしていくのが馬にとって1番いいことなのか、たくさんの方が考える必要があると思った。

6 感想

- 日本は元々農耕民族で農耕用として馬と関わってきたが、欧米では、カウボーイなどの騎馬民族の考え方が残っているため、日本人の競走馬に対する考え方と欧米などの海外の人の競走馬に対する考え方の違いを知ることも今後、探求活動を発展させる上で必要になると思った。
- この探究をたくさんの人に聞いていただき、より多くの人に、一緒にこの問題のゴールを考えてほしい。

参考文献

- <https://www.loveuma.jp>
- <https://www.jrha.or.jp/selectsale/index>
- <https://shadai-ss.com>
- <https://derby-trail.com/reemploymentofthehorse/>